



平成28年度

第6回 みみらんどセミナー

☆ 実施日時 ☆ 平成28年10月12日（水） 13:15～14:30

☆ テーマ ☆ 「子どもの学びを支える言語活動」

☆ 講師 ☆ 東北福祉大学 教授 大西孝志 先生



アクティブラーニングとは

- 主体的な学び・対話的な学び・深い学び。
- 行動を「アクティブ」にするのではなく、頭の中で考える・思考する活動が「アクティブ」（活発）になっていること。
- 子ども達がどのように学ぶか、アクティブラーニングの視点からの授業改善が求められている。

新たな教育課題に対応した教員研修

- 1 アクティブラーニングの視点からの授業改善
- 2 ICTを用いた指導法
- 3 道徳教育の充実
- 4 外国語活動の充実
- 5 特別支援教育の充実

音韻表象の確立の大切さ

- 音韻表象とは、自分の発音と文字が一致していること。
- 発音が多少不明瞭だったとしても、サインや指文字をつけて音数と文字数が合えば、書記言語が身につく。
- 例えば、「でわ」と発音しているが「では」と書くことができる。
- 書記言語の上に教科学習が成立する。読み書きの基礎練習なしに教科指導に入ると、無理が生じる。
- 発音・発語指導や声模倣によって音韻表象を形成しておくことが大切。
- また、文字などで視覚的にも示すことが大切。

学びを支えるためのポイント

- 日本語の読み書きは教科指導で伸ばす！
- 教科学習は読み書き能力がついて向上！
- 板書は書記言語習得のためのお手本！
- 話者へ注目させ、声模倣と相互読話を！
- 書き言葉は「書く」ことでしか伸びない！

参加者の皆様からの感想

- ☆ 当たり前なのが、聴覚障がいのある子どもには難しく、工夫して教える必要があることが分かりました。
- ☆ アクティブラーニング、現場でも取り入れたいと思います。